

出典・根拠



写真 ウツセミカジカ



写真 トウヨシノボリ



写真 ヒドリガモ



写真 カワセミ



写真 ガマ



写真 ヨシ



凡例	
	河川
	圏域界



図 近江八景位置図

写真出典：滋賀県HP

河川整備計画（本文）

（歴史）

圏域は、都として栄えた京都・奈良に近く、また西国と東国・北国を結ぶ交通の要衝として古くから歴史の表舞台に登場してきました。陸路は、京都から北陸方面へ抜ける鯖街道（国道367号）や西近江路（国道161号）が通り、また、陸上、湖上交通の結節点としての大津港は重要な港であり最盛期に千艘以上の丸船が集まるなど、港町、宿場町、城下町として栄えました。このように、大津市は古都として相応しい歴史的風土を有していることが評価され、平成15年10月10日に、全国で10番目となる古都保存法に基づく「古都」に指定されました。

出典・根拠

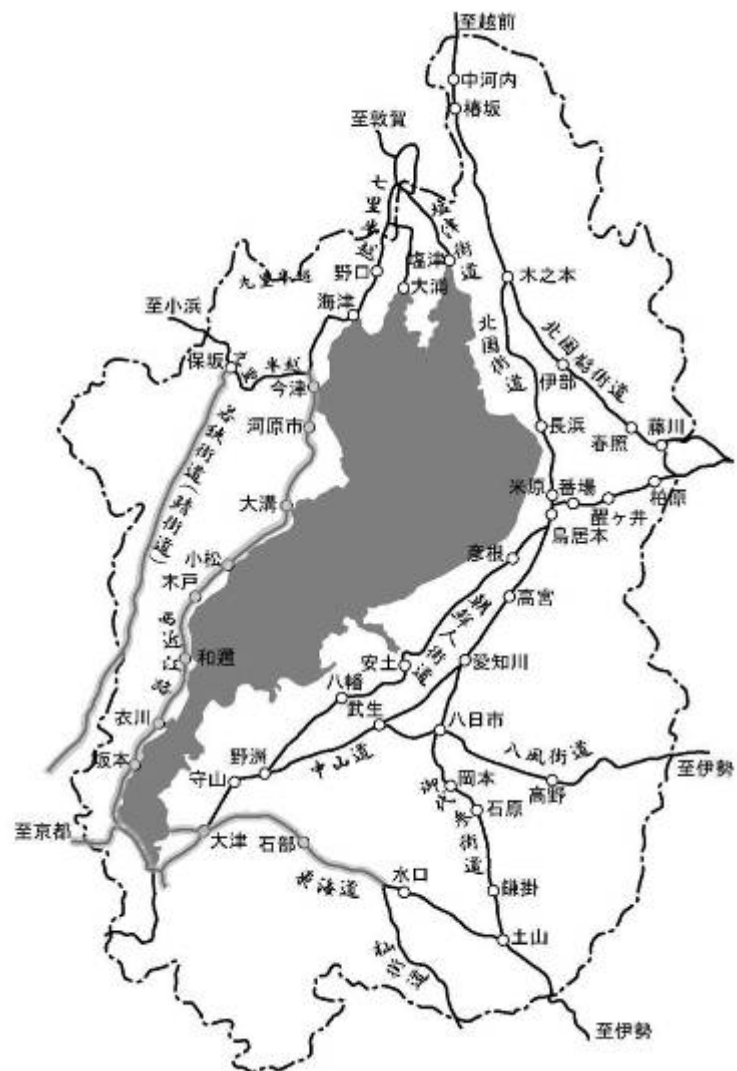


図 湖国の街道と宿場町

河川整備計画（本文）

（文化財）

滋賀県は、美しい自然とそれぞれの時代が代表する豊かな歴史文化資産に恵まれ、国宝や文化財の数は全国でも有数を誇っています。

圏域内には、数多くの貴重な文化財が存在し、その内訳は、国宝および国指定の重要文化財が 311 件、県指定の文化財が 55 件となっています。主なものとして、建造物では、石山寺本堂（国宝、大津市石山寺 1 丁目）や、延暦寺根本中堂（国宝、大津市坂本本町）、園城寺金堂（国宝、大津市園城寺町）などがあります。また、延暦寺の門前町として栄えた大津市坂本地区は、大津市坂本伝統的建造物群保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）に選定されています。天然記念物としては、石山寺硃灰石（国指定、大津市石山寺辺町）、比叡山鳥類繁殖地（国指定、大津市坂本本町）の 2 件が指定されています。

また、常世川の橋梁部や坂本地区などには、古くから地域住民との関わりをもつ石仏が多く残っており、三田川などには生活文化財としての河道内の洗い場も残っています。

出典・根拠

表 県指定（選択・選定）件数一覧（平成 16 年 1 月現在）

	重要文化財							重要無形文化財	無形文化財	民族文化財			史跡名勝天然記念物			建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区	重要美術品	合計
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡等	考古資料	歴史資料			有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	名勝史跡				
大津市	44	54	75	17	32	7	3	1	1			12	2	2	3	1	17	271	
大津市の国宝	9	3	3	3	17	1												36	
志賀町	3		1															4	
圏域内合計	56	57	79	20	49	8	3	1	1			12	2	2	3	1	17	311	

表 国指定件数一覧（平成 16 年 1 月現在）

	重要文化財							重要無形文化財	無形文化財	民族文化財			史跡名勝天然記念物			建造物群保存地区	重要伝統的建造物群保存地区	重要美術品	合計
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡等	考古資料	歴史資料			有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	名勝史跡				
大津市	15	6	6	7	5	4	1		2	3	1		3					53	
志賀町					2													2	
圏域内合計	15	6	6	7	7	4	1		2	3	1		3					55	

出典：滋賀県ホームページ 淡海の文化財：文化財目録



写真 常世川の橋梁部の石仏（松ヶ枝 1 号橋上流）

出典・根拠

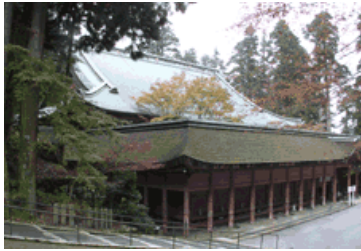


写真 延暦寺根本中堂(国宝)、廻廊(重文)



写真 史跡 穴太廃寺跡

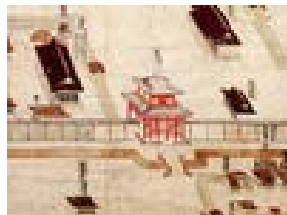


写真 園城寺境内古図(重文)

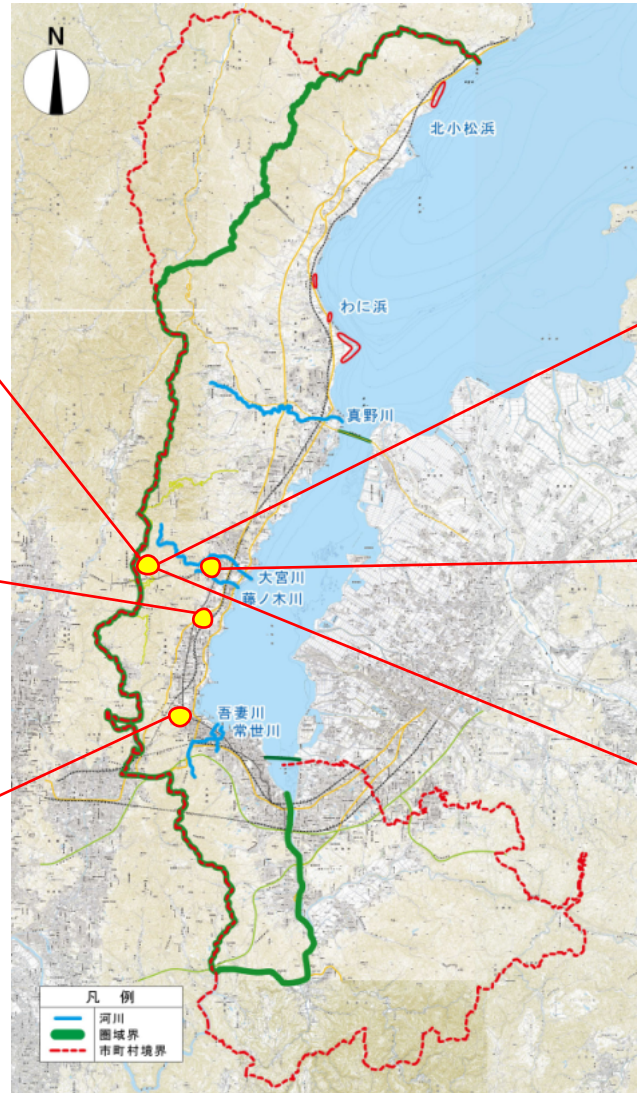


図 文化財 写真位置図



写真 延暦寺 木造千手観音立像(重文)



写真 大津市坂本伝統的建造物群保存地区 (重伝建)



写真 彫刻延暦寺不動明王二童笠像(重文)

河川整備計画（本文）

（土地利用）

圏域の平成 18 年度の土地利用は、森林が約 61.8%、建物・幹線交通用地が約 18.1%、農用地が約 12.3%となっており、森林の占める割合が約 6 割と大きくなっています。昭和 51 年度に比べて、建物・幹線交通用地が約 1.66 倍と大きくなっており、市街化が進んでいます。

出典・根拠

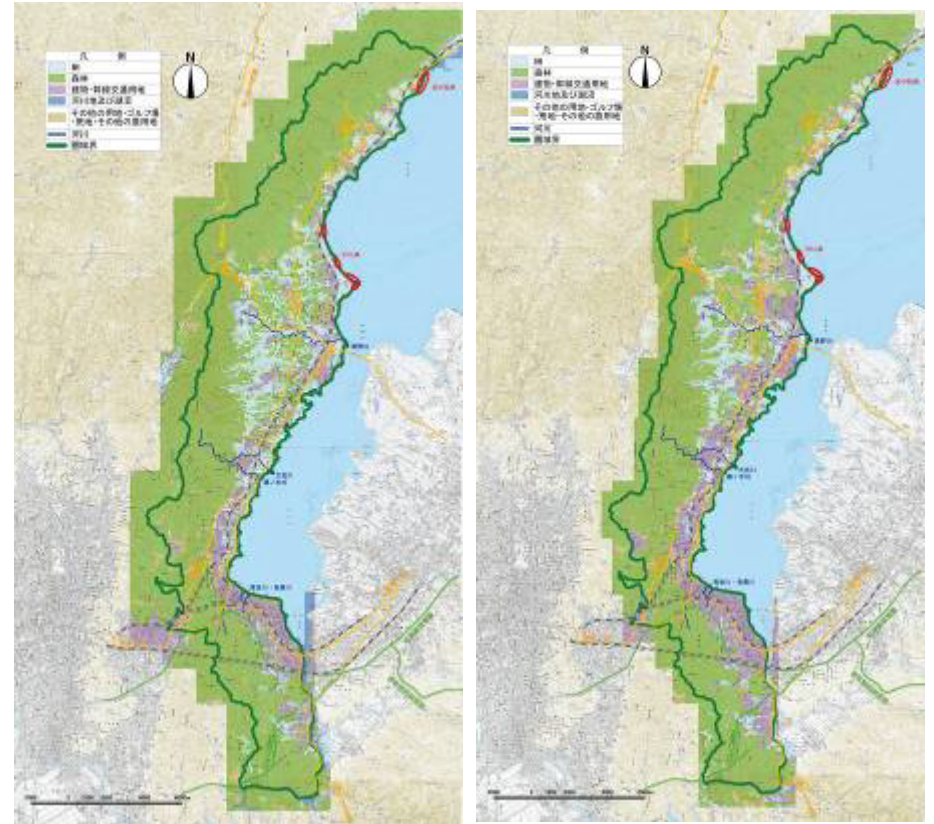


図 志賀・大津圏域土地利用図(S 5 1) 図 志賀・大津圏域土地利用図 H 1 8

出典：国土交通省 国土計画局 参事官室 GISホムページ

河川整備計画（本文）

（人口）

圏域が位置する大津市²の平成22年の人口は約33.5万人で、県人口の23.9%にあたります。また世帯数は約13.5万戸（県世帯数の約25.3%）となっており、昭和55年に比べ、30年間で人口は1.46倍、世帯数は1.98倍増加しており、全国的に見ても高い水準の人口増加率を示しています。

2) 大津市

本整備計画中に記載されている大津市とは、平成18年の合併後の大津市（旧大津市と旧志賀町が合併）のことをいいます。

出典・根拠

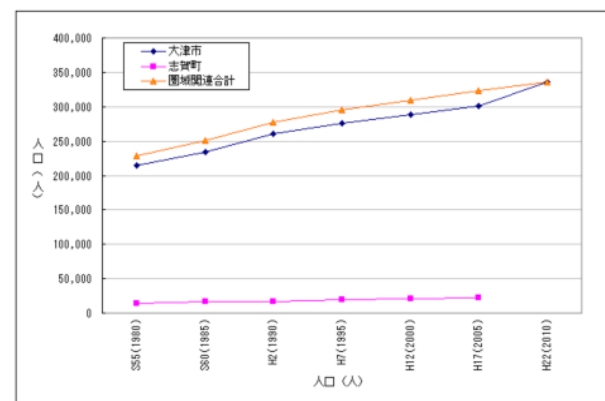


図 志賀・大津圏域の人口推移

志賀・大津圏域関連市の人口の推移

圏域関連	人口(人)						
	S55(1980)	S60(1985)	H2(1990)	H7(1995)	H12(2000)	H17(2005)	H22(2010)
大津市	215,321	234,551	260,018	276,332	288,240	301,672	335,272
志賀町	13,661	16,164	17,272	19,242	21,553	22,047	-
圏域関連合計	228,982	250,715	277,290	295,574	309,793	323,719	335,272
昭和55年を1.0とした延び	1.00	1.09	1.21	1.29	1.35	1.41	1.46
滋賀県計	1,079,898	1,155,844	1,222,411	1,287,005	1,342,832	1,380,361	1,403,977
大津市合計/県合計	0.212	0.217	0.227	0.230	0.231	0.235	0.239

志賀・大津圏域関連市の世帯数の推移

圏域関連	世帯数(世帯)						
	S55(1980)	S60(1985)	H2(1990)	H7(1995)	H12(2000)	H17(2005)	H22(2010)
大津市	64,983	72,012	82,556	92,319	100,949	111,336	135,649
志賀町	3,431	4,147	4,574	5,419	6,498	7,139	-
圏域関連合計	68,414	76,159	87,130	97,738	107,447	118,475	135,649
昭和55年を1.0とした延び	1.00	1.11	1.27	1.43	1.57	1.73	1.98
滋賀県計	294,534	320,354	352,364	394,848	440,294	479,217	536,451
大津市合計/県合計	0.232	0.238	0.247	0.248	0.244	0.247	0.253

出典：～H17：国勢調査、H22 滋賀県のしおり 2011

河川整備計画（本文）

（産業）

圏域が位置する大津市の平成 17 年の産業別就業者人口は、第 1 次産業が約 0.2 万人（1.6%）、第 2 次産業が約 3.7 万人（25.2%）、第 3 次産業が約 10.8 万人（73.2%）であり、第 3 次産業の割合が高くなっています。

製造業についてみると、平成 21 年の事業所数（従業員が 4 人以上）が 264 箇所となっています。

製造品出荷額などについては、年間 2,957 億円となっており、業種としては電子、デバイス製造業が最も多く、次いで生産用機械製造業、プラスチック製造業となっています。

出典・根拠

表 大津市の産業別就業者人口（平成 17 年）

市町村名	就業者人口（人）			
	第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業	合計
旧大津市	2,013	34,832	100,453	137,298
旧志賀町	383	2,296	7,358	10,037
合計	2,396 (1.6)	37,128 (25.2)	107,811 (73.2)	147,335 (100.0)

出典：平成 17 年国勢調査(H22 滋賀県のしおり 2011)

表 大津市の事業所数・製造品出荷額等（平成 21 年）

市町 産業分類	事業所数	製造品出荷額等(億円)			
		製造品 出荷額	加工賃 収入額	その他 収入額	計
大津市計	264	2,957	133	47	3,137
食料品	43	214	1	3	219
飲料・飼料	7	13	0	2	15
繊維工業	14	97	12	-	109
木材・木製品	5	3	0	0	3
家具・装備品	11	11	0	0	11
パルプ・紙	14	155	3	1	159
印刷	14	40	1	-	41
化学工業	2	X	-	X	X
石油・石炭	1	X	-	X	X
プラスチック	20	351	15	3	369
ゴム製品	1	X	-	-	X
皮革	-	-	-	-	-
窯業・土石	17	315	6	7	329
鉄鋼業	2	X	-	-	X
非鉄金属	1	X	-	X	X
金属製品	23	25	9	2	36
はん用機械	9	290	3	6	300
生産用機械	23	548	6	1	555
業務用機械	12	51	20	4	75
電子・デバイス	12	693	17	4	714
電気機械	15	16	34	2	52
情報通信機械	1	X	-	X	X
輸送機械	5	X	5	X	38
その他	12	16	1	0	16

出典：平成 21 年工業統計調査

河川整備計画（本文）

（交通）

圏域の交通は、主に湖岸周辺の平地部に集中し、なかでも圏域南部の瀬田川河畔から逢坂峠にかけては交通の要衝となっており、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線（JR 琵琶湖線）、京阪電鉄京津線などの鉄道のほか、中央自動車道西宮線（名神高速道路）、国道 1 号および国道 1 号バイパス（京滋バイパス）が通っています。また、湖岸に並行して JR 湖西線、京阪電鉄石山坂本線のほか、国道 161 号バイパス（西大津バイパス・湖西道路・志賀バイパス）、国道 161 号があり、近畿、東海、北陸をつなぐ重要な路線として、その役割を果たしています。

また、圏域と琵琶湖東岸をつなぐ重要な橋として昭和 39 年に琵琶湖大橋（橋長 1.40km）が交通の所要時間短縮、観光促進を目的として開通しました。また、滋賀県の政治・経済・文化の中心地である大津市と、産業経済発展の著しい湖南・湖東を結ぶ幹線道路である国道 1 号のバイパスとして昭和 49 年に近江大橋（橋長 1.29km）が開通しました。

出典・根拠



図 志賀・大津圏域の交通網

河川整備計画（本文）

（農業）

圏域が位置する大津市の農業産出額は、米が約7割を占めており、次いで野菜が約2割、花卉の生産および畜産（乳用・肉用牛、養鶏など）が約1割となっています。

平成20年の農用地面積について見ると、水田面積が2,320ha、畑面積が116haとなっており、近年10年間で水田面積が約0.93倍、畑面積が約0.76倍となっています。

（漁業）

圏域の漁業は、琵琶湖においてはエリと呼ばれる小型定置網を主としてアユ・ワカサギなどの漁が行われています。また、圏域の位置する大津市では、セタシジミが特産品として有名です。

出典・根拠

【農業産出額】

合計	228千万円		
稲類計	219千万円	畜産計	15千万円
米	160千万円	肉用牛	8千万円
雑穀	0千万円	乳用牛	4千万円
雑穀	1千万円	鶏	4千万円
いんげん	4千万円	豚	8千万円
野菜	41千万円	牛肉	8千万円
果実	8千万円	卵	1千万円
花卉	2千万円	その他畜産物	1千万円
工業副産物	0千万円	その他畜産物	0千万円
養蚕・畜産以外の他	0千万円	加工農産物	0千万円

農業産出額の構成

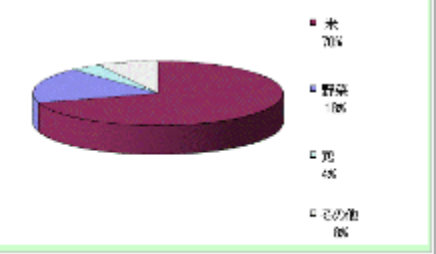
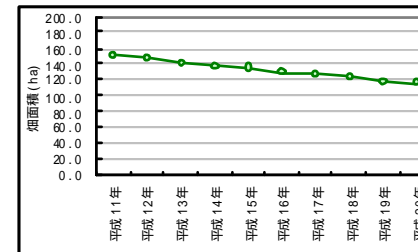
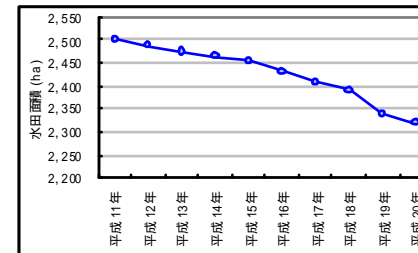


図 大津市の農業産出額

出典：わがマチ・わがムラ-市町村の姿-



出典：滋賀農林水産統計年報

（近畿農政局編集、滋賀農林統計協会発行）



写真 エリ（小型定置網）

河川整備計画（本文）

（その他の産業）

くさきぞめてぐみくみひも ぜぜやき
 地場産業としては、草木染手組組紐、膳所焼、大津絵などがあります。
 また、圏域内では琵琶湖や山間部の豊かな自然環境や美しい景観を活かし、国道161号などの湖岸道路や比叡山ドライブウェイなどを用いた観光や比叡山延暦寺・石山寺をはじめとする歴史的遺産をめぐる観光が盛んです。

出典・根拠

草木染手組組紐(くさきぞめてぐみくみひも)



沿革・特徴
 大津の組紐は、江戸時代中期に京都へ入る武士や町人の刀の下げ紐や印籠の紐を修理したことから始まるといわれている。丸台、角台、綾竹台、内記台などの組合により、百種類以上の組み方ができる。内記台は膳所藩士の内記大膳が考案し、刀の下子紐を製作していたと伝えられる。今では大変珍しく、内記台によって組まれた帯締めは適度な伸縮性があり大変締めやすいのが特徴である。

膳所焼(ぜぜやき)



沿革・特徴
 江戸時代初期に膳所藩主石川忠政が川口(比叡)の指板で窯を作ったのに始まる。膳所窯のお皿焼きとして、主に大名間の膳所用の品が焼かれた。明治初期に一時中断し、大正時代に先代岩崎三郎が復興した。遠州七窯の一つとして有名である。粘土は超粘土の粘土を持った、包丁のようなもので半原は容易である。膳所焼は非常に軽く強いのが特徴であるが、ちくちく水引する紋

大津絵(おおつえ)



沿革・特徴
 寛永年間、今から約300年前は大津に伝わる民画であり、東海道大津の需で旅人の注文に応じて描かれた。7色程度で描かれた、髪巻でのびのびとした曲線が特徴。芭蕉が「大津絵の筆のはじめは何仏」（大津絵筆の描き初めの筆は何の仏様であろうという意味）と詠んでいるように、もともとは大衆の信仰の対象として仏画から始まった。美人画、武者絵、鳥獣図、仏画などいずれも図柄とユーモアに富み、狂言や川柳に連なる笑点を持ち、今も大津絵のもつ人間風刺は人々に種々な感動をあたえ、愛されている。

出典：滋賀県ホームページ 滋賀県伝統産業